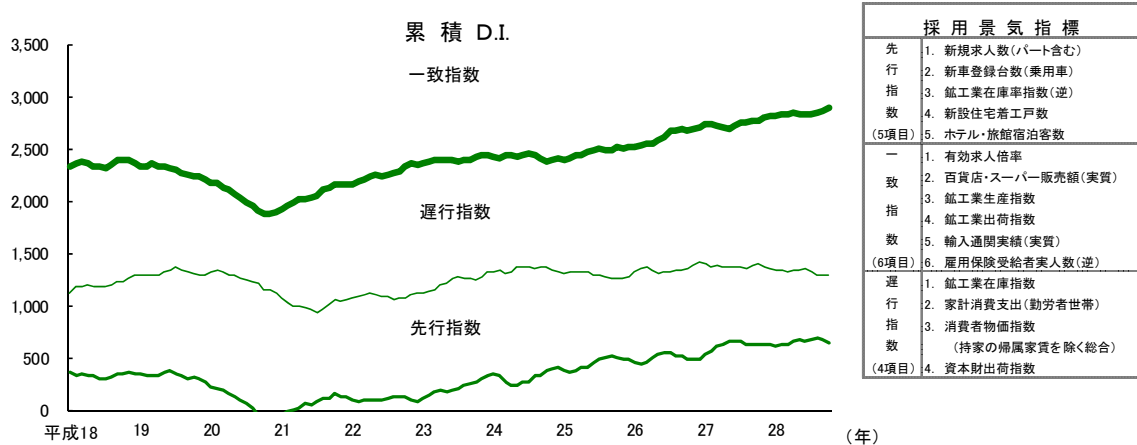


1. 景気動向指数

平成 29 年 3 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、百貨店・スーパー販売額(実質)、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人数（逆）の 4 項目がプラスとなり、全体では 66.7%と 3 カ月連続で 50.0%を上回った（6 項目のうちプラス 4、マイナス 2）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数の 4 項目がマイナスとなり、全体では 20.0%と 2 カ月連続で 50.0%を下回った（5 項目のうちプラス 1、マイナス 4）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、資本財出荷指数の 2 項目がプラスとなり、全体では 50.0%と 3 カ月連続で 50.0%を下回った後、保合となった（4 項目のうちプラス 2、マイナス 2）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)
一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。
資料)宮崎県県民政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行性を表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

3 月の鉱工業生産指数は、101.4 で前年同月比 4.1%減と 3 カ月連続で前年を下回った。

主要業種別にみると、食料品（同 2.2%増）、化学（同 8.5%増）、繊維（同 1.9%増）は前年を上回ったものの、電子部品・デバイス（同 27.3%減）は前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

5 月の公共工事請負金額は、96 億 100 万円で前年同月比 15.1%減と 2 カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同 11.9%減、県が同 15.2%増、市町村が同 37.3%減、その他（独立行政法人等）が同 1.0%増となった。

② 着工建築物

4 月の着工建築物は、棟数 474 棟で前年同月比 12.9%増、床面積は 7 万 6,723 ㎡で同 1.3%増となった。

内訳をみると、居住用は棟数同 14.8%増、床面積同 0.3%減となり、非居住用は棟数同 2.9%増、床面積同 6.0%増となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用同 168.5%増、商業用同 69.6%増、サービス業用同 53.4%減となった。

③ 住宅着工

4月の新設住宅着工戸数は、694戸で前年同月比2.0%減となった。

利用関係別にみると、持家は同9.9%増、貸家は同2.7%減、分譲は同22.7%減（マンションは前年56戸→本年0戸、一戸建てが同32戸→68戸）となった。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

4月の百貨店・スーパー販売額は、54億9,300万円で前年同月比0.2%減と2カ月ぶりに前年を下回った。

商品別では、衣料品は12億2,100万円で同1.3%減、飲食料品は27億5,000万円で同1.6%減、その他計は15億2,200万円で同3.4%増となった。

② 乗用車新車販売動向

4月の乗用車新車登録台数は、1,662台で前年同月比10.7%増と6カ月連続で前年を上回った。

車種別にみると、普通車は777台で同11.2%増、小型車は885台で同10.2%増となった。

5. 空港乗降客数

4月の宮崎空港乗降客数は、22万1,796人で前年同月比1.8%増と3カ月連続で前年を上回った。

乗客数は10万9,370人（前年10万7,111人）と増加し、降客数も11万2,426人（前年11万792人）と増加した。

6. 消費者物価指数

4月の宮崎市の消費者物価指数は、100.5で前年同月比0.8%上昇した。

これを費目別にみると、光熱・水道（同3.5%増）、食料（同2.2%増）、交通・通信（同1.6%増）など7費目が上昇した。

7. 企業倒産

5月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は3件で前年同月比200.0%増と2カ月ぶりに前年を上回った。負債総額は1億300万円で同123.9%増と2カ月ぶりに前年を上回った。

業種別では、建設業、卸売業、サービス業他各1件となっている。

8. 雇用情勢

4月の有効求人倍率は、1.38倍で前月から0.04ポイント改善した。

新規求人数は、9,731人で前年同月比10.9%増となった。

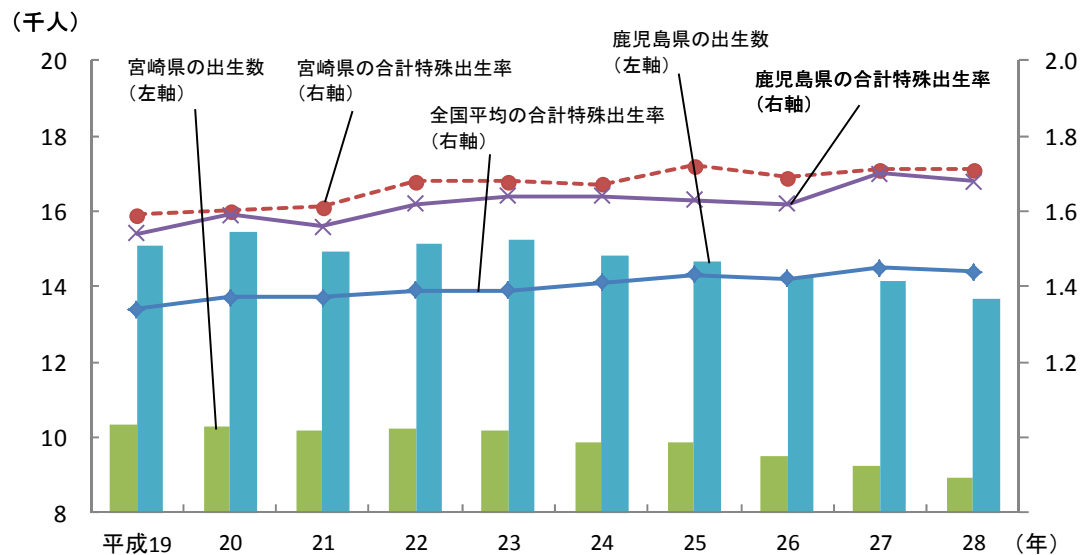
サービス業（他に分類されないもの）は51.6%増、学術研究、専門・技術サービス業は87.0%増、運輸、郵便業は28.4%増など12産業が増加となった一方で、医療、福祉は3.1%減、不動産業、物品賃貸業は43.8%減、卸売、小売業は2.8%減など6産業が減少した。

雇用保険受給者数は、3,540人で同9.7%減と59カ月連続で前年同月を下回った。

〈今月のトピックス〉～ 合計特殊出生率と出生数

厚生労働省によると、平成28年の宮崎県の合計特殊出生率は1.71で前年と同水準となった。全国平均を0.27ポイント上回り、沖縄1.95、島根1.75に次いで長崎と並び全国で3番目に高かった。一方、平成28年の出生数は8,929人で前年比297人減少した。出生率は上向き傾向ではあるものの、出生数の減少は続いている。

合計特殊出生率と出生数



資料)厚生労働省「人口動態統計月報年計(概数)」